

一次の文章を読み、古典の作品名を答えなさい。(10点×5問)

- (1) 今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきのみやつことなむいひける。

- (2) 祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。たけき者もつひには滅びぬ、ひとへに風の前の塵に同じ。

- (3) 春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

- (4) つれづれなるままに、日暮らし、硯に向かひて、心にうつりゆくよしなし事を、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

- (5) 月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。舟の上に生涯を浮かべ、馬の口とらへて老いを迎ふる者は、日々旅にして旅をすみかとなす。古人も多く旅に死せるあり。

二次の古典作品の作者名を下から選び、線でつなぎなさい。(10点×5問)

- | | | | |
|-----|--------|---|------|
| (1) | 枕草子 | ・ | 松尾芭蕉 |
| (2) | 徒然草 | ・ | 兼好法師 |
| (3) | おくのほそ道 | ・ | 紫式部 |
| (4) | 方丈記 | ・ | 清少納言 |
| (5) | 源氏物語 | ・ | 鴨長明 |



できるだけ漢字で書けるようにしよう!

一次のー線部の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。(10点×10問)

(1) 今は昔、竹取の翁と①いふものありけり。

①



点

野山にまじりて竹を取りつつ、②よろづのことに③使ひけり。

②

③

名をば、さぬきのみやつこと④なむいひける。

④

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いと⑤うつくしうてあたり。

⑤

(2) 春はあけぼの。⑥やうやう白くなりゆく⑦山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

⑥

⑦

夏は夜。月のころはさらなり、闇も⑧なほ、蛍の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

⑧

秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと⑨近うなりたるに、鳥の寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど、⑩飛びいそぐさへあはれなり。まいて雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず。

⑨

⑩

一次の―線部の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。(10点×10問)

点

ころは二月十八日の酉の刻ばかりのことなるに、①をりふし北風激しくて、磯打つ波も高かりけり。舟は、揺り上げ②揺りすゑ漂へば、扇もくしに定まらずひらめいたり。沖には平家、舟を一面に並べて見物す。

陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。いづれもいづれも晴れならずといふことぞなき。与一目をふさいで、

「南無八幡大菩薩、我が国の神明、日光の権現、宇都宮、那須の湯泉大明神、③願はくは、あの扇の真ん中射させてたばせたまへ。これを射損ずるものならば、弓切り折り自害して、人に二度面を④向かふべからず。いま一度本国へ⑤迎へんとおぼしめさば、この矢はづさせ⑥たまふな。」

と心のうちに祈念して、目を見開いたれば、風も少し吹き弱り、扇も射よげにぞなつたりける。

与一、かぶらを取つてつがひ、よつびいて⑦ひやうど放つ。小兵と⑧いふぢやう、十二束三伏、弓は強し、浦響くほど長鳴りして、あやまたず扇の要ぎは一寸ばかりおいて、

⑨ひいふつとぞ射切つたる。かぶらは海へ入りければ、扇は空へぞ上がりける。しばしは虚空にひらめきけるが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさつとぞ散つたりける。夕日のかかやいたるに、みな紅の扇の日出だしたるが、白波の上に漂ひ、浮きぬ沈みぬ揺られければ、沖には平家、ふなばたをたたいて感じたり、陸には源氏、えびらをたたいてどよめきけり。

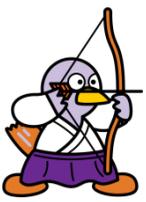
あまりのおもしろさに、感に堪へざるにやとおぼしくて、舟のうちより、年五十ばかりなる男の、黒革をどしの鎧着て、白柄の長刀持つたるが、扇立てたりける所に立つて舞ひしめたり。伊勢三郎義盛、与一が後ろへ歩ませ寄つて、

「御定ぞ、つかまつれ。」
と言ひければ、今度は中差取つてうちくはせ、よつびいて、しや頸の骨を⑩ひやうふつと射て、舟底へ逆さまに射倒す。平家の方には音もせず、源氏の方にはまたえびらをたたいてどよめきけり。

(「平家物語」による)

⑨	⑦	⑤	③	①

⑩	⑧	⑥	④	②



一次のー線部の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。(10点×10問)

点

これも仁和寺の法師、童の法師に①ならむとする名残とて、各遊ぶことありけるに、②酔ひて興に入るあまり、傍なる足鼎をとりて頭にかづきたれば、③つまるやうにするを、鼻をおしひらめて、顔をさし入れて舞ひ出でたるに、満座興に入ること限りなし。

しばし奏でて後、④抜かむとするに、大かた抜かれず。酒宴ことさめて、⑤いかゞはせむと惑ひけり。とかくすれば、首の⑥まはり缺けて血垂り、たゞ腫れに腫れみちて、息もつまりければ、うち割らむとすれど、たやすく割れず、響きて堪へがたかりければ、叶はで、すべき様なくて、三足なる角の上に、帷子をうちかけて、手をひき杖をつかせて、京なる醫師(くすし)の許、率(い)て行きけるに、道すがら人の怪しみ見る事限りなし。醫師の許(もと)にさし入りて、むかひ⑦居たりけむ有様、さこそ異様なりけめ。物をいふも、くゞもり聲に響きて聞えず。「かゝる事は書にも見えず、傳へたる教へもなし」といへば、また仁和寺へ帰りて、親しきもの、老いたる母など、枕上により居て泣き悲しめども、聞くらむとも覺えず。

かゝる程に、或者の⑧いふやう、「⑨たとひ耳鼻こそ切れ失すとも、命ばかりはなどか生きざらむ、たゞ力をたてて引き給へ」とて、藁の蒂(しべ)をまはりにさし入れて、金を隔てて、首もちぎるばかり引きたるに、耳鼻缺(か)けうげながら、抜けにけり。からき命⑩まうけて、久しく病み居たりけり。

〔徒然草〕による

⑨	⑦	⑤	③	①
⑩	⑧	⑥	④	②

見たことがない文章でも、歴史的仮名遣いの読み方は一緒だよ。
 大まかな内容を捉えられるようにしよう！



一次のー線部の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。(10点×10問)

点

おのれ古典(イニシヘブミ)をとくに、師の説と①たがへること多く、師の説のわるき事あるをば、わきまへいふことも②おほかるを、いとあるまじきことと思ふ人おほかんめれど、これ③すなはちわが師の心にて、つねに④をしへられしは、後によき考への出来たらんには、かならずしも師

の説にたがふとて、なほゞかりそとなむ、教へられし、こはいと⑤たふときをしへにて、わが師の、よにすぐれ給へる一つ也、大かた古へを⑥かむかふる事、さらにひとり二人の力もて、ことごとくあきらめつくすべくもあらず、又よき人の説ならんからに、多くの中には、誤りもなかなかからむ、必わろきこともまじらではえあらず、そのおのが心には、今はいにしへのこゝろことごとく明らか也、これをおきては、あるべくもあらずと、思ひ定めたることも、おもひの外に、又人のことなるよきかむかへもいでくるわざ也、あまたの手を経(フ)るまにまに、さきざきの考へのうへを、なほよく考へ⑦きはむるからに、つぎつぎにくはしくなりもてゆくわざなれば、師の説なりとて、かならずなづみ守るべきにもあらず、よきあしきをいはず、ひたぶるにふるきをまもるは、學問の道には、⑧いふかひなきわざ也、又おのが師などのわろきことを⑨いひあらはすは、いとまかしこくはあれど、それもいはざれば、世の學者その説にまどひて、長くよきをしるごなし、師の説なりとして、わろきをしりながら、いはずつゝみかくして、よさまにつくろひをらんは、たゞ師をのみ⑩たふとみて、道をば思はざる也、宣長は、道を尊み古へを思ひて、ひたぶるに道の明らかならん事を思ひ、古への意のあきらかならんことをむねと思ふが故に、わたくしに師をたふとむことわりのかけむことをば、えしもかへり見ざることあるを、猶わろしと、そしらむ人はそしりてよ、そはせんかたなし、われは人にそしられじ、よき人ならむとて、道をまげ、古への意をまげて、さてあるわざはえせずなん、これすなはちわが師の心なれば、かへりては師をたふとむにもあるべくや、そはいかにもあれ

(本居宣長「玉勝間」より師の説になづまざる事による)

⑨	⑦	⑤	③	①

⑩	⑧	⑥	④	②



漢文の訓読①

□ 訓読とは

- ・ 漢字のみで書かれた原文に送り仮名を補ったり、返り点や句読点を付けたりして、日本語の文章として読めるようにすること。
- ・ 訓読のために付けるさまざまな符号を**訓点**という。

□ 訓点の位置

← 送り仮名

読 ム

書 ヲ

→ 返り点



点

① レ点…一つ下の字を読んでから、返って読む。

(20点×2問)

例

2
レ
1

(1)

レ
レ
レ
レ
レ

(2)

レ
レ
レ
レ
レ

② 一・二点…二つ以上離れた下の字を読んでから、返って読む。

(20点×2問)

例

3
二
1
二
2
一

(1)

二
二
一

(2)

三
レ
二
二
一

③ 上・下点…一・二点と合わせて使い、二つ以上離れた字を読んでから、返って読む。

(20点×1問)

例

5
下
3
二
1
二
2
一
4
上

(1)

下
二
レ
レ
一
一
上

一 訓点にしたがって、四角に読む順番を数字で書き入れなさい。(10点×10問)

(1)	<input type="text"/>
	<input type="text"/>
(2)	<input type="text"/>
	<input type="text"/>
	<input type="text"/>
	<input type="text"/>

(3)	<input type="text"/>
	<input type="text"/>

(4)	<input type="text"/>
	<input type="text"/>

(5)	<input type="text"/>
	<input type="text"/>

(6)	<input type="text"/>
	<input type="text"/>

(7)	<input type="text"/>
	<input type="text"/>

(8)	<input type="text"/>
	<input type="text"/>

(9)	<input type="text"/>
	<input type="text"/>

(10)	<input type="text"/>
	<input type="text"/>



「レ」は、「一・二点」と
「レ点」が合わさったも
のだよ

点

点

漢文の訓読②
書き下し文

訓点にしたがって、語順を並びかえ、漢字とひらがなで書いた文章のこと。

特別な読み方をする字

- ① 「不レ」…書き下し文では「レず」「レざる」と書く。
- ② 「非ズ」…書き下し文では「あらズ」と書く。
- ③ 「可シ」…書き下し文では「べシ」と書く。
- ④ 「於」「干」「而」…置き字。書き下し文には書かない。

一次の訓読文を書き下し文に直さない。(20点×5問)

(1) 読ム 書フ

[Blank box for reading/writing]

(2) 有レ 備ヘ 無レ 憂ヒ

[Blank box for reading/writing]

(3) 歳 月ハ 不レ 待タ 人ヲ

[Blank box for reading/writing]

(4) 良 薬ハ 苦ニ 於 口ニ

[Blank box for reading/writing]

(5) 不レ 入ラ 虎 穴ニ 不レ 得ニ 虎 子ヲ

[Blank box for reading/writing]



特別な読みをする字は、他にも
・「勿カレ」(なカレ)
・「不能ハ」(あたはず)
などがあるよ。特に「不」をひらが
なで書くことはよく覚えておこ
う!

一書き下し文を参考にして白文に訓点を書き入れなさい。(10点×10問)

(1) 暮に河陽の橋に上る。

暮 上 河 陽 橋 。

(2) 李下に冠を正さず。

李 下 不 正 冠 。

(3) 百聞は一見に如かず。

百 聞 不 如 一 見 。

(4) 徳は孤ならず。必ず隣有り。

徳 不 孤 。

必 有 隣 。

(5) 西のかた諸侯を得んとして錦水に棹さす

西 得 諸 侯 棹 錦 水 。

(6) 雲には衣裳を想い 花には容を想う

雲 想 衣 裳 花 想 容 。

(7) 過ちて改めざる、是を過ちと謂う。

過 而 不 改 、 是 謂 過 矣 。

(8) 故に事の格に合わざる者を言いて杜撰と為す。

故 言 事 不 合 格 者 為 杜 撰 。

(9) 青は之を藍より取りて、藍よりも青く。

青 取 之 於 藍 、 而 青 於 藍 。

(10) 故きを温めて新しきを知れば、以て師為る可し。

温 故 而 知 新 、 可 以 為 師 矣 。

点

「矣」も置き字だから、書き下し文には含まれないよ。書き下し文をよく見て、漢字の使われている順番を参考にしよう！

